

學藝通信

第 100 号

2016 年 4 月 5 日発行
浜松学芸中学校・高等学校
浜松市中区下池川町 34 番 3 号
<http://www.gakugei.ed.jp>



▲卒業演奏会



▲▼マラソン大会



球技大会



◀芸術鑑賞会



◀中学修学旅行



題字：芸術科 書道課程 3 年 大場千聡



“100”に想う

校長 内藤純一

満開の桜に続き、たくさんの新入生を迎えて平成28年度がスタートしました。生徒・保護者の皆さま、ご入学・ご進級おめでとうございます。心より喜び申し上げます。

今号は記念すべき第100号ということで、その大切な節目に何を書いたらいいのか少し考えた結果…。思い浮かんだのは、私自身が小学生のころから“100”という数字に対して「憧れ」と「コンプレックス」の気持ちを抱きながら生活してきたということです。

●テストの目標は100点満点…？

小さいころの私は、早生まれ(2月)の第一子だったこともあってか、おくて(成長・成熟の遅い)な子どもでした。ですから、小学校1年生のテストで100点を取ったという印象はほとんどありません。最初はテストの点数など大して気にもしていませんでしたが、学年が上がるにつれて100点を取るクラスメイトがうらやましくなり始め、そして、6年生でもめったに100点を取れない自分に対して自信が持てないまま小学校を卒業しました。

そんな私に転機が訪れたのは、中学1年生の1学期でした。中間テストの結果は5教科合計360点(各教科100点満点)で平均に少し届かなかったのですが、期末テストで平均を超える408点を取ることができました。平均以上が目標だったので、自分なりにホッとしていたのですが、テストカードを渡されるときに担任の先生から「このクラスで前回より一番点数が上がったのは内藤」と褒められて、天にも昇るくらい嬉しい気持ちになりました。

それ以後、私はテストの目標を常に「前回は上回ることに」にしました。もちろん、100点には憧れていましたし、他の人より良い点を取ることに魅力を感じてはいましたが…。私は担任の先生の言葉から、100点満点を取ることも「自分自身が成長すること」という、もっと価値の高いものがあることを学びました。

●友達をつくるなら100人…？

♪一年生になったら 一年生になったら 友達100

人できるかな…♪ ご存じ、「一年生になったら」は今の時期に定番の童謡で、私が小学校に入学するころには既に存在していました。(この歌は今から50年前に発表され、その後「日本の歌100選」に入ったそうです)

親しみやすい歌なので気軽に口ずさんできましたが、よくよく考えてみると友達が100人できるって凄いことだと思います。なぜならば、50年以上も生きている私ですが、友達が100人居るという実感を持ったことは無いからです。(もっとも、どこからが友達かという基準次第で数は変わりますが…)

友達は少ないよりも多い方がいいと思います。遊び友達、部活の友達、趣味の合う友達、一緒に勉強する友達…、大勢いれば毎日が充実しそうです。でも、困ったときに頼りになる「100人力(りき)」の友達が1人いれば、それで充分という考え方もあります。また、信頼できる友達が10人いて、その10人それぞれに別の友達が10人いれば合わせて100人という考え方もできなくはありません…。1人でも10人でも100人でも、自分にとって大切な友達は一生の財産です。新入生はもちろんのこと、2・3年生の皆さんも学年が変わったのを機に、新しい友達づくりをしてみましょう。

結びにあたり、私こと

本年度より、前任の大塚功校長先生の後を受け継ぐことになりました。公立の小中学校で14年間勤務した後、本校にお世話になって19回目の春を迎えた54歳の教員です。

20年前の校名変更以来、本校は進学校としての「かたち」づくりに100%全力投球してきました。その「かたち」に魂を入れていくのが私の役目だと思っています。「芸術科を有する東海の名門進学校」になることを目指して、日々「みんなが成長する学校」にしていきたいと考えています。「みんな」とは生徒だけでなく、職員や保護者も含めた学校に関わるすべての人をイメージしています。私自身も未熟者ですから、もっともっと成長したいと思っています。「教育に完成はない」と常々感じていますが、やる以上は完成度100%に少しでも近づけていくつもりです。

今後とも、ご理解・ご協力・ご指導のほど、よろしくお願いいたします。

を送るために…



普通科

意識は、他人から自分がどう見られているかを知ったり、他人の気持ちに対してより繊細に考え行動するのに役立ちます。また、自分を成長させるのにも使えます。しかし自意識のせいで、他人の意見を恐れるあまり、思うような変化を起こすことをためらったりもします。

「みんなどう思うだろう？」というのは、普通は何か新しいことをやろうとする時によく使う言葉です。しかし、私たちは本当にすべての人がどう思うかが気になるのでしょうか？ あるジャーナリストが、「成功する秘訣は知らないが、失敗するにはみんなを喜ばせようとすればいい」と言っていました。おそらく彼は、全員を本当に幸せにすることは不可能だということを言いたいのでしょう。

また古代ローマの哲学者が、「誰もが他人よりも自分のことを愛しているのに、自分の意見よりも他人の意見を気にすることには、驚きもしない」という言葉を残しています。最近、ちょっとした知り合いや見知らぬ人の考えには無関心に振る舞いますが、家族や仲の良い友だちが考えていることには、自分の考えよりも気になる人が多いと言われます。そのために自分が何も思い切ったことができないと思うようなら、この二つの言葉を利用して自問自答してみたらどうでしょうか？

社会規範はもちろんあります。自分がやろうとしていることが、あまりにも過激だったり常軌を逸しているように思われるなら誰もが自制します。つまり、人は自然にこれから起こるであろう結果を考えて行動します。しかし、自分が考えるほど、現在気になっていることが他人に迷惑をかけることは、ほとんどの場合ありません。ですから、自分の人生を向上させてくれるようなものを見つけたら、やらなかったことを後悔する前に実行すべきなのです。

今の皆さんは、高校生として新たな段階に足を踏み出しています。このようなときには、過去は過去としてあるがまますを受け入れなければならないでしょう。ただそこから学ぶことはそんなに多くはないのです。なぜなら皆さんには、限りなく大切な今と、明るく開けている未来があるからです。そして「今」と「未来」は、自分の心持ちにより、または行動により、いくらでも変えていくことができるものなのです。よりよい人生を自分の力で開拓していくことができるのです。

楽しいですよ、新しく拓いていくということは。その楽しみは、皆さんが等しく持っているチャンスなのです。チャンスを活かす活かさないは、皆さん自身に委ねられていることにほかなりません。

(山口文夫)



▲中学2年：スキー合宿



▲中学1年：百人一首大会



◀中学3年：幼稚園訪問

芸術科

音楽

電子音楽

新入生のみなさん、入学おめでとうございます。

一昨年音楽課程が50年目を迎え、今年電子音楽課程が30年目を迎えます。それぞれの課程が30年、50年と歩む間に浜松の音楽を取り巻く環境はずいぶん変わってきました。「楽器の街」から「音楽の街」へ、そして「ユネスコ創造都市ネットワーク（音楽分野）」への加盟……。50年前には考えられませんでした。今では毎日のように大小様々なコンサートが行われています。そして、それらのコンサートでは多くの卒業生たちが舞台人として、また制作などのスタッフとして活躍しています。また、静岡国際オペラコンクールや浜松国際ピアノコンクールなどの大きなコンクールも開かれるようになり、それに関連するイベントにも少なからず卒業生が関わっています。それらのイベントには県民オペラや浜松国際ピアノアカデミーなどもあります。

さて、今年の2月にその浜松国際ピアノアカデミーの記念コンサートで、チョ・ソンジンさんの演奏を聴きました。彼は2009年に浜松国際ピアノコンクールで優勝を果たし、昨年はショパンコンク

ルで優勝した今注目の若手ピアニストです。5年前に彼から同年代の若者と交流をしたいという希望があり、幸運にも音楽館の3階ホールで演奏をしていただきました。演奏後、質疑応答の時間もありましたが、彼の誠実な人柄を垣間見ることができて、みんな大感激でした。もちろん演奏は素晴らしく、好感の持てるものでした。そして時を経て今回の演奏会は、ピアノの技術だけではなく内面的にも大きく成長した繊細かつスケールの大きい演奏でしたので、聴衆はみな満足していました。改めて、若者にとって5年という歳月がいかに貴重な時間であるかを実感した一時でもありました。

さあ、みなさんはこれからの3年間を音楽とどのように関わりながら成長していくのでしょうか。好きな音楽と共に生きる人生を思い描いてみてください。そうすれば、自ずと高校生活をどのように過ごしていけばよいか見えてくるはずです。一つ一つの試験やコンクールを糧に、そして様々な経験を通して多くの知識や技術を身につけて、将来の目標に向かっていきましょう。そんなみなさんを我々教師は全力で応援します。

(服部千春)

芸術科

美術・書道

芸術科美術課程・書道課程では、日々の制作活動に加えて様々な企画に取り組んでいます。

中でも、現在有志で取り組んでいるのは「浜松街中商店街似顔絵看板企画」です。総勢40名近い生徒が3カ月近くかけて行う一大プロジェクトです。

浜松駅北側にある28商店の店主の似顔絵をメインに、店名や店の特徴を盛り込んだ木製（天竜杉）の看板を制作しています。似顔絵やデザインを美術課程の生徒が、そしてキャッチコピーや店名等の文字は書道課程の生徒が担当します。できあがった作品（看板）は、データ素材にしてハンコ・チラシ・名刺用のアイコン等、様々なものにも活用していただく予定です。

この企画の凄さは、生徒たちが個人（またはグループ）で様々な業種・異年齢の店主の方と交渉して完成に近づけていくことです。当然そこには、コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力が必要となります。自分から情報や意図を分かりやすく伝えた後、相手の希望に沿うことができなければ、当然ダメ出しもあります。これも勉強です。このような体験の積み重ねが、作品展の運営、ギャラリートー

ク、大学入試等に生きてくるのです。

桜の散る前までには、本校美術・書道課程の生徒たちと商店街の皆様とのコラボレーションの結晶が浜松市の中心街で風に揺れているはずです。

さて、新しい年度の始まりです。新入生も新2・3年生も、気持ちを切り替えて、これから何が起こるのかワクワクしながら日々を過ごしてください。

何か困ったことや心配なことがあれば、すぐに教員に相談してください。

最後になりましたが、A3の松尾華子さんが「高校生アトライター大賞」(筑波大学芸術専門学群主催)において、大賞(最優秀賞)を受賞しました。受賞作品を読むと、様々な視点を持ち、常に情報アンテナを高くしておく重要性を感じます。

以下に松尾さんの文章の一部を載せておきます。全文は筑波大学芸術専門学群HPに他の作品と共に掲載されます。ぜひ読んでみてください。

『……美の対象は少しずつ広がっていくと思う。一部だけを対象にし、他は全て排除してしまう考えは幼稚だ。少し離れて周りをみれば、「美」は無限に広がっている。そこに一歩足を踏み入れると、自分の中の美の価値観が変化していくだろう……』

(小川知伸)

学校らしい学校に…⑬

新入生の皆さん入学おめでとうございます。そして在校生のみなさんも新しい生活に胸を弾ませていることと思います。新学期は出会いの季節です。新しい友をつくる絶好の時期です。緊張するのはお互い様、まずは勇気を出して声をかけてみましょう。あなたの一言が新しい世界を開く魔法の言葉になっていくことを願っています。友達作りとともにやはり中学校生活で大切なのは学習習慣を身につけることです。授業も小学校とは大きく変化していく中で、最も大切なことは、集中して学習することです。集中とは、一定時間の中でより多くのことをこなすことです。学習する時間帯を考え、また、学習量にあわせて適切な時間を目標として決め、ある一定量をできるだけ短時間でこなす必要があります。ただ、長く時間だけをかけていても、どうしても集中力が落ち、ダラダラと学習することになり、いい効果は得られません。そのためにも、時計や学習機の位置などもよく考えてみましょう。

そして重要なのは、脳の最大限の集中を生み出すために、早寝早起き朝ごはんの生活習慣を整えることです。人間の脳は、夜の11時を超えて起きていると、そ

の日に学習したことが脳の中にきちんと蓄えられず、勉強しても忘れてしまうことにつながってきますし、朝起きた時にボーッとしてしまい、それが学校での学習にも悪影響を与えることもあります。早寝をして質の良い睡眠を取れた起床時は、集中がしやすい時間帯でもあります。早寝早起きを心がけ、短時間でいいので、朝に集中する学習をやってみてください。

さらに重要なのは朝食です。脳に栄養やエネルギーが届かない状況であれば、学習は進んでいきません。

中学生3年間で身長が15センチ以上伸びる子もいるぐらい、まさに伸び盛りの時期です。いろいろな種類の栄養を必要としていますから、ご家庭では朝食で多くの食材をとって、元気に学校へと送り出していただけたらと思います。

つまり、学習習慣を身につけるとは「基本的な生活習慣を身につける」ことなのです。毎日同じ時間に決まったことをする、ということが自然にできれば勉強も毎日同じ時間にやれるはずですよ。楽しく時には面白さを感じられるような工夫や、励ましあえる友がいれば心強いですね。充実した学校生活が送れるように学校と家庭が連携をしていきたいと考えておりますので、何かお気づきになることがございましたら、いつでも学校へお知らせください。
(福田耐子)

第1回 成人を祝う会

1月4日の月曜日、スーツや晴れ着に身を包んだ150人以上の卒業生が本校記念館ホールに集まり、「第1回成人を祝う会」が盛大に行われました。同窓会幹事作成による思い出アルバムスライドショーから始まり、校長先生・理事長先生・同窓会会長の方々からの祝辞、卒業生代表によるお礼の言葉、恩師からのお祝いの歌の披露、記念撮影と、とても明るく和やかに式は進みました。その後のレストランにおける懇親会では、仲間との思い出話に花を咲かせ、懐かしいレストランの料理を堪能し、同窓会幹事によるビンゴ大会で大いに盛り上がり、2時間ほどの楽しいひとときを満喫していました。

中学校一期生が入学してから早8年。月日が経つのは早いもので、あっという間にこの日がやってきたという気持ちです。一期生を迎え入れる準備から関わり、入学してから6年間の担任、生活指導・進路指導・受験指導など様々なシーンで彼らの成長を見守りました。学芸高校を巣立ち、現在は充実した大学生を送っているという話を聞くと、自然と口元が緩み、幸せな気持ちになります。今後、このような生徒達が毎年増えていくことを嬉しく思うとともに、この行事を通して同窓会が盛り上がり、さらに学芸高校が発展していくことを願っています。

(高橋秀明)



人事異動

◆退職

- ・大塚 功 (昭和 56 年 4 月～平成 28 年 3 月) 35 年勤続
- ・梅垣 繁 (平成 13 年 4 月～平成 28 年 3 月) 15 年勤続
- ・小澤 香 (平成 24 年 4 月～平成 28 年 3 月) 4 年勤続
- ・片山佳乃江 (平成 24 年 4 月～平成 28 年 3 月) 4 年勤続
- ・持田 匡平 (平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月) 1 年勤続

◇新任

- ・河邊 孝彦 かわべ たかひこ 専任教諭 (国語) 中央大学総合政策学部政策科学科卒
- ・渥美 創 あつみ そう 専任教諭 (社会) 京都府立大学大学院文学研究科修士課程修了
京都府立大学文学部卒
- ・渡邊 慎吾 わたなべ しんご 専任教諭 (数学) 東北大学理学部数学科卒
- ・林 慶一郎 はやし けいちろう 非常勤講師 (保健・体育) 中京大学体育学部体育科学科卒

○役職変更

- ・内藤 純一 副校長→校長
- ・原田 豊治 教諭→副校長
- ・生田 暢久 教諭 (再雇用) →非常勤講師
- ・長谷川 泉 教諭→教諭 (再雇用)
- ・池田 敏 教諭→教諭 (再雇用)
- ・川島 寿郎 事務→事務 (再雇用)

毎日の日課表

平常日課 (月曜日～金曜日) 7 時限がある場合		
職員打合せ	8:15	8:25
登校時間		8:25
朝の読書 / 朝の学習	8:25	8:35
SHR/朝の会 (中学)	8:35	8:45
1 時 限	8:50	9:40
2 時 限	9:50	10:40
3 時 限	10:50	11:40
4 時 限	11:50	12:40
昼 休 み	12:40	13:25
掃 除	13:25	13:40
5 時 限	13:45	14:35
6 時 限	14:45	15:35
総合・7 時限・特活	15:45	16:35

平常日課 (月曜日～金曜日) 7 時限がない場合		
職員打合せ	8:15	8:25
登校時間		8:25
朝の読書 / 朝の学習	8:25	8:35
SHR/朝の会 (中学)	8:35	8:45
1 時 限	8:50	9:40
2 時 限	9:50	10:40
3 時 限	10:50	11:40
4 時 限	11:50	12:40
昼 休 み	12:40	13:25
掃 除	13:25	13:40
5 時 限	13:45	14:35
6 時 限	14:45	15:35
帰りの会 (中学)	15:45	16:00

全校集会のある月曜日課		
職員打合せ	8:15	8:25
登校時間		8:25
朝の読書 / 朝の学習	8:25	8:35
SHR/朝の会 (中学)	8:35	8:45
1 時 限	8:50	9:40
2 時 限	9:50	10:40
3 時 限	10:50	11:40
4 時 限	11:50	12:40
昼 休 み	12:40	13:25
掃 除	13:25	13:40
5 時 限	13:45	14:35
6 時 限	14:45	15:35
全 校 集 会	15:45	16:10
SHR/ 帰りの会 (中学)	16:20	16:35

土曜日課		
職員打合せ	8:15	8:25
登校時間		8:25
SHR/朝の会 (中学)	8:25	8:35
1 時 限	8:40	9:25
2 時 限	9:35	10:20
3 時 限	10:30	11:15
4 時 限	11:25	12:10

教務より ■ 生徒登校時刻は 8 時 25 分までです。

- ◆ 交通機関のなかで鉄道以外は、その日の天候、道路状況によって 10 分前後の遅れが生じることは、社会通念上常識になっております。こうしたことに起因する遅刻は、現実の社会では認められておりません。これらは、本人の努力によって未然に防ぐことができると考えられます。
したがって、鉄道以外による遅刻 (雨の日等々で遅延届のある場合でも) は、原則として遅刻で扱います。
- ◆ 生徒が遅刻しないようにするためには何時に家を出たらよいか、余裕をもって登校できるよう保護者の方は生徒とよく話し合ってください。